

県内の新鮮凍結血漿使用時の予後に関する多施設共同研究と適正使用を見据えた体制整備

17施設共同の前向き観察研究を実施し、新鮮凍結血漿（以下、FFP）の適正使用を推進するためのエビデンスを示すとともに、指針との乖離状況及び課題を抽出し、適正使用を行うために必要な体制を整備を目指す。

前年度までの実施状況

前向き観察研究（17施設共同研究）

- 各施設の倫理審査委員会の承認を受けて実施（222件，184例（平成30年3月末現在））
- 診療録からデータを抽出するため、アンケート調査より実臨床を反映
 - ・ 輸血前に凝固検査が行われていないもの、赤血球輸血が10単位未満のものなど、使用根拠が不明な「予防的輸血」は、アンケート調査より多く全体の30%に及んだ。
 - ・ 使用理由として、アンケート調査ではDICとの回答が多かったが前向き研究では少なく、DIC診断基準が周知されていない可能性を示唆
- FFP輸血28日後の予後について、周術期に凝固異常が起こる前に「予防的に」FFP輸血を実施することが功を奏している可能性を示唆

研究成果

実施結果

- 平成30年9月末までに症例数804例、のべ925件の使用エピソードを収集
- 患者属性、基礎疾患、FFP投与日数、周術期該当有無及び術式、使用目的、投与量、使用前後の凝固検査値、合併症の有無、赤血球輸血の有無とその量、入院期間、使用28日後の予後について調査
- FFP輸血前後の検査による効果確認の注意喚起が必要
- 非周術期に比べ周術期の方が患者予後が良く、今後使用方法による救命率の違いの検討も必要

日本輸血・細胞治療学会で発表

エビデンスに基づく安全で有効な輸血医療の実践

指針との乖離状況の把握及び課題抽出

- 県内では、
 - ・ 365日24時間体制の凝固検査
 - ・ 輸血の有効性の評価
 - ・ 製剤の取扱い
 を含めた輸血が適正に実施されていない状況にある。
- 臨床検査技師及び看護師の役割が重要となるため、同職種による輸血に関するワーキンググループ（以下、WG）の立上げが必要

検査技師WG

- ・ 凝固検査の体制整備
- ・ 検査データの標準化

看護師WG

- ・ 製剤の取扱い
- ・ 副反応発生時の対応等のブラッシュアップ

- ・ 要綱改正
- ・ 構成メンバー検討
- ・ WG設置
- ・ 先進事例の共有
- ・ 総合討論
- ・ 活動方針検討

- ・ 要綱改正
- ・ 構成メンバー検討
- ・ WG設置に向けた関係者調整
- ⇒ 次年度立上予定

検査室と輸血現場の「コミュニケーション」の向上